

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 30 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

立山地獄谷では熱活動が活発な状態が続いています。2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 4 - ）
瀬戸蔵山西監視カメラ（弥陀ヶ原の西約 14km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは概ね 200m 以下で経過しています。
- ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3 - 、図 4 - ）
弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 3 - ~ 、図 4 - ~ 、図 5）
GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況（6 月 18 日、瀬戸蔵山西監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 7 月分）は平成 30 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平 29 情使、第 798 号)。

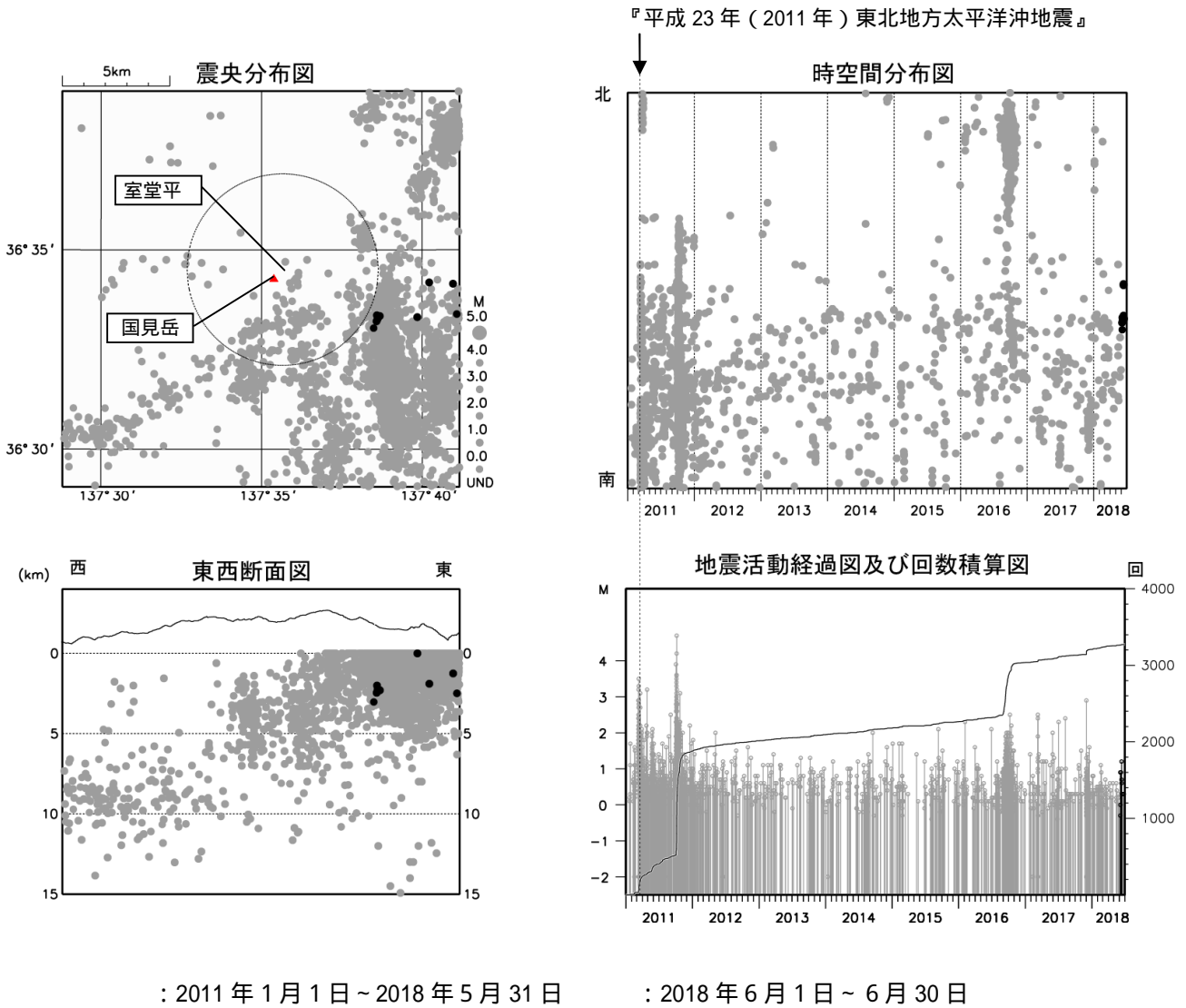


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011年1月1日～2018年6月30日)

震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震(室堂平でS-P時間1秒以内)のおよその範囲を示しています。
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。

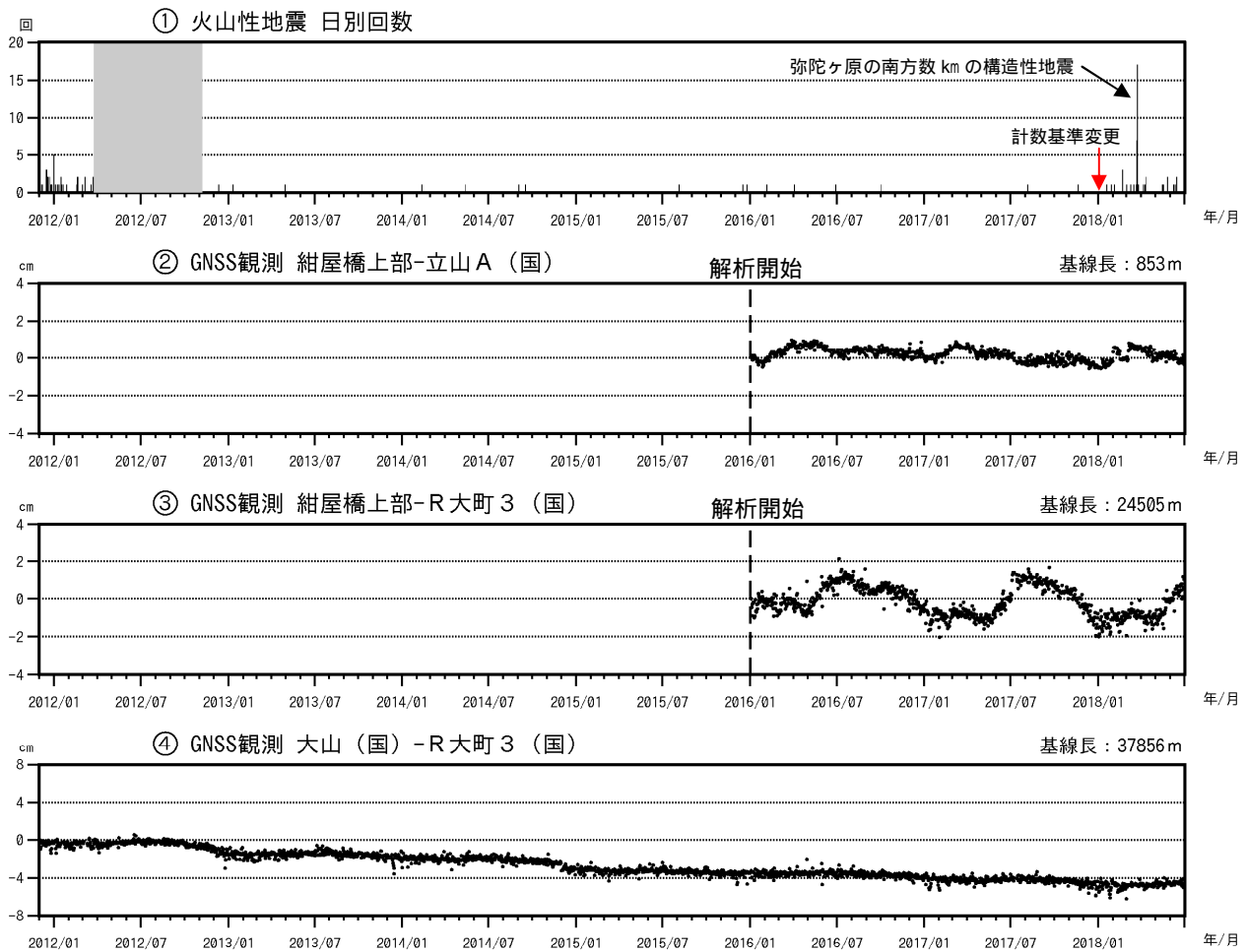


図 3 弥陀ヶ原 火山活動経過図（2011 年 12 月 1 日～2018 年 6 月 30 日）

グラフの灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

～ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

* 火山性地震の計数基準

2017 年 12 月まで：立山室堂 2 の上下成分で最大振幅 $40 \mu\text{m/s}$ 以上

2018 年 1 月～：室堂平の上下動成分で最大振幅 $1 \mu\text{m/s}$ 以上(2018 年 5 月に変更 2018 年 1 月まで遡って適用)

・火山活動によるとみられる変動は認められません。

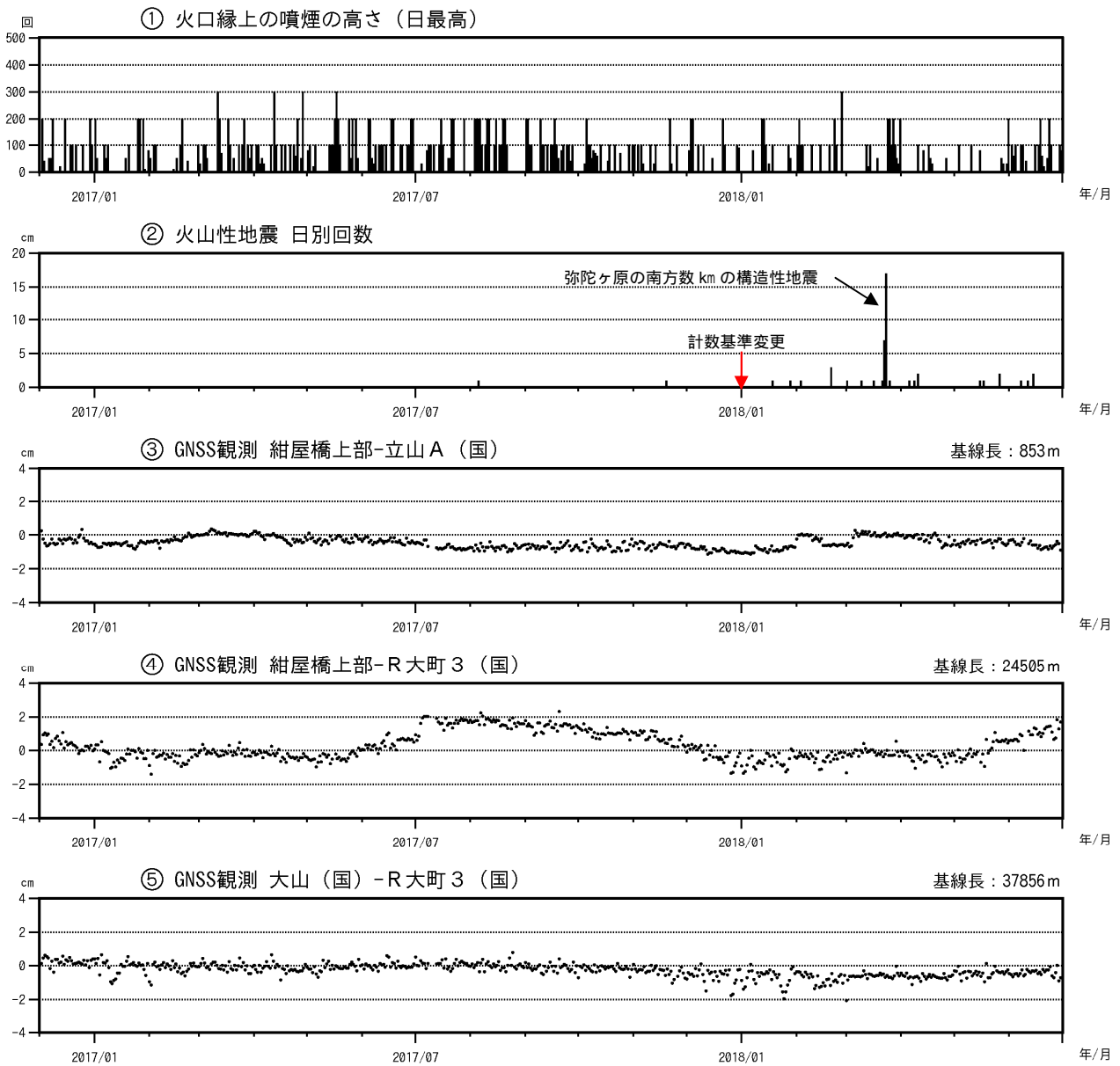


図4 弥陀ヶ原 最近の火山活動経過図(2016年12月1日~2018年6月30日)

グラフの灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

噴煙の高さの観測は2016年12月1日開始

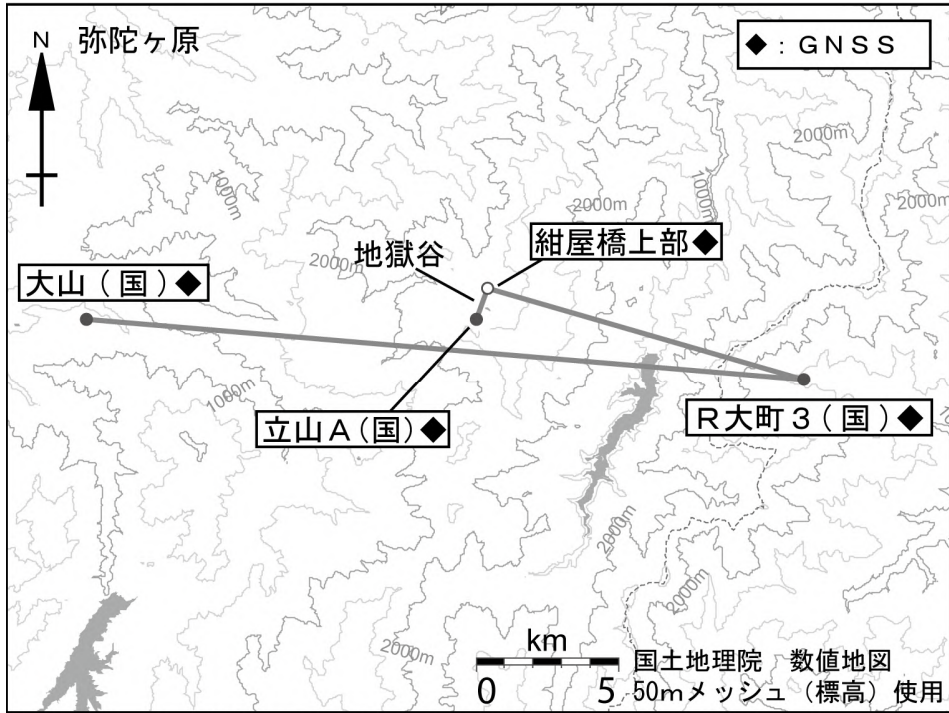
~ GNSS連続観測による基線長変化(国): 国土地理院

* 火山性地震の計数基準

2017年12月まで: 立山室堂2の上下成分で最大振幅40 μ m/s以上

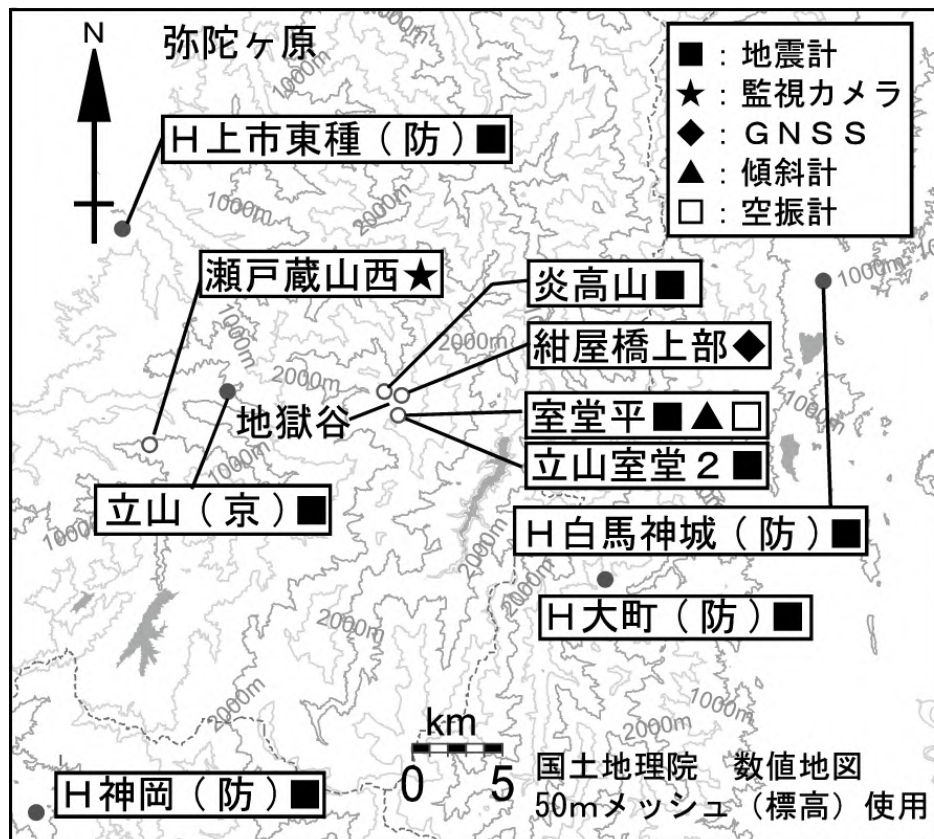
2018年1月~: 室堂平の上下動成分で最大振幅1 μ m/s以上(2018年5月に変更 2018年1月まで遡って適用)

・火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院

図5 弥陀ヶ原 GNSS 観測網



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (防) : 防災科学技術研究所、(京) : 京都大学防災研究所

図6 弥陀ヶ原 観測点配置図